

海外招聘者…米国南オレゴン大学ダグラス・スミス博士とジョアン・ロースミス博士

a) 期間…平成 23 年 12 月 8 日～12 月 22 日

b) 実施題目…学部講義— ポジティブ心理学入門：みんなが幸せになる、みんなを幸せにする

大学院講義— コア・リフレクション（省察的アプローチ）：新しい自己理解と講師教育の概念と技法

講演会— 南オレゴン大学における FD の取組

学部学生向け 米国大学出張授業

ポジティブ心理学入門

—みんなが幸せになる、みんなを幸せにする—

Positive Psychology and Well-being

お茶の水女子大学では、国際化戦略の一環として、国際的に活躍できるグローバル人材の育成に重点を置いたファカルティ・ディベロップメント [Faculty Development, FD] (授業改革のための取り組み) を実施しています。英語による講義を通して、学生に国際社会に通用する実践的コミュニケーション能力を培う教育環境を提供します。

今年度は、南オレゴン大学から心理学のダグラス・C. スミス博士をゲスト講師に招いて、英語による集中講義を開催することになりました。これまでの心理学は、心の不調を持っているなど、悪い状態にある人に注目し、その改善を図ることが重視されてきたと言われます。これに対し、ポジティブ心理学は、すべての人の人生をより良くすることを旨とするので、近年になって米国で発祥し、隆盛となっているのです。

この授業では、米国からポジティブ心理学の専門家をお招きし、集中講義をしていただきます。米国と同様の授業を受けることは、皆様の国際性向上や視野拡大の点からも良い経験になるでしょう。授業は英語で行われますが、スミス先生は日本人に慣れておられ、分かりやすくお話し下さりますので、是非ご参加下さい。



南オレゴン大学
ダグラス・スミス博士

【専任スタッフによるガイダンス】	【スミス先生による講義】
★10月5日(水) 12:20～13:00 授業案内	★12月10日(土) 10:40～16:30
★11月30日(水) 12:20～13:00 資料配布と解説	★12月14日(水) 13:20～18:10
	★12月17日(土) 10:40～16:30
	★12月21日(水) 13:20～18:10

11月30日のガイダンスに出席できない学生は、資料配布のため、王 玄(オウカ) (wangokazu@shyoho.co.jp)までご連絡すること。
※おのほコードからでも可。
※スマートフォンのQRコードはQRコードによって非対応の場合もあります。

◆講義 10月14日(金)までに、王 玄(オウカ) (wangokazu@shyoho.co.jp)宛てにメールで聴修申請をしてください。
◆対象 文教育学部棟1号館3階306室
◆対象者 全学部生 全学年 (大学院生等も聴講可能)
◆受講料 無料
◆お問い合わせ 「社会心理学特殊講義」 文教育学部人間社会科学科 (担当:坂元 章)

文教育学部 人間社会科学科 (担当:坂元 章 sakamoto@ocha.ac.jp)

大学院学生向け 米国大学出張授業

コア・リフレクション（省察的アプローチ）

新しい自己理解と教師教育の概念と技法

Core Reflection: A Process for Human Potential

お茶の水女子大学では、国際化戦略の一環として、国際的に活躍できるグローバル人材の育成に重点を置いたファカルティ・ディベロップメント [Faculty Development, FD] (授業改革のための取り組み) を実施しています。英語による講義を通して、学生に国際社会に通用する実践的コミュニケーション能力を培う教育環境を提供します。

この度、南オレゴン大学から教育学、教育心理学のジョアン・ロースミス博士をゲスト講師に招いて英語による集中講義を開催することになりました。

コア・リフレクションとは、自分の行動について、自分のコンピテンス、信念、専門家としてのアイデンティティなどに照らしながら、システマティックに自己省察を行うこととするものです。新しい技法として、教師教育の分野などで注目されています。この授業では、米国からこの問題の専門家をお招きし、集中講義をしていただきます。米国と同様の授業を受けることは、皆様の国際性向上や視野拡大の点からも良い経験になるでしょう。授業は英語で行われますが、適時日本語でのガイドもありますので、是非ご参加下さい。



南オレゴン大学
ジョアン・ロースミス博士

【専任スタッフによるガイダンス】	【ロースミス先生による講義】
★10月5日(水) 13:20～14:00 授業案内	★12月10日(土) 10:40～16:30
★11月30日(水) 13:20～14:00 資料配布と解説	★12月14日(水) 9:00～14:50
	★12月17日(土) 10:40～16:30
	★12月21日(水) 9:00～14:50

11月30日のガイダンスに出席できない学生は、資料配布のため、王 玄(オウカ) (wangokazu@shyoho.co.jp)までご連絡すること。

◆講義 12月14日(金)までに、王 玄(オウカ) (wangokazu@shyoho.co.jp)宛てに氏名・学年・学部・所属(専攻、コース、学年)をメールし、履修申請をしてください。
◆対象者 博士前期課程 (学部学生等も聴講可能)
◆受講料 無料
◆お問い合わせ 「社会コミュニケーション特殊研究」 (担当:大森美香、坂元 章) 博士前期課程人間発達科学専攻

学部講義パンフレット

大学院講義パンフレット



D. スミス博士



授業の様子

J. スミス博士

お茶の水女子大学 学生主体の新しい学士課程の創成事業 第9回FD講演

南オレゴン大学におけるFDの取り組み

お茶の水女子大学では、国際通用性を高めることに重点を置いたファカルティ・デベロップメント【Faculty Development, FD】(授業改革のための取り組み)を実施しています。

平成23年12月12日(月)に「第9回FD講演会」を開催いたしますので、是非とも皆様にご参加いただきたく、ご案内申し上げます。

南オレゴン大学では、他の米国の大学と同様に、FDのために多様な内容の取り組みが行われています。本講演では、まず、南オレゴン大学のFD活動の体制や内容について概説していただき、その後で、講演者自身が取り組んでいる、教員が自分自身に関する音楽をシステムティックに行うための技法について講義していただきます。

参加者の皆様と共に考える機会に致したいと存じます。

開催日: 12月12日(月) 16:40 ~ 18:10
 場 所: 共通講義棟2号館102室
 対象者: 教員、関係教員、職員、学生
 興味のある一般の方
 申込: 不要(直接会場へお越しください)

◆ 講師
 Douglas S. Smith
 南オレゴン大学心理学部、専門は臨床心理学、臨床心理学、心理コンサルティングとしても活躍。

◆ 書籍(著書)
Appraisal and production of school violence: Context, issues, and methods (Hampshire, NY: Nova Science Publishers.), *Anger, hostility, and aggression: Assessment, prevention and intervention strategies for youth* (New York: John Wiley and Sons.) 他

◆ 講師
 Jo-Anne N. Lau-Smith
 南オレゴン大学教育学部、専門は教師教育学、教育心理学、教師の自己省察に関する技法について研究。

◆ 書籍(著書)
 King, J. & Lau-Smith, J. *Teaching from the Inside Out: Discovering and Developing the Self-idea-Teacher* (Gainesville, FL: Corwin, 2018).
 King, J., Lau-Smith, J., & Vanston, A. (Eds.). *Bringing out the best in teacher education: A transformative approach for teaching and learning from within*. New York: Routledge. 他

【FDに関する問合せ】
 教務センター TEL. 03-5279-0130
 hirohiko@ocha.ac.jp

【本講演会に関する問合せ】
 教務センター
 センター長 坂元 菜 sakamoto.n@ocha.ac.jp

国立大学法人
 お茶の水女子大学

講演会パンフレット

SOU Programs for Fostering Engagement

- SOU Campus Theme Presentations
- Career Development Services
- Commuter Resource Center
- Academic Advising and Support
- Student Health and Wellness Center
- Office of Disability Services
- Success at Southern
- Writing Center
- Alternative Spring Break



SOU's Center for Teaching & Learning (CTL)

- The Southern Oregon University Center for Teaching & Learning advocates and fosters a university-wide culture of academic excellence grounded in scholarship, collaboration, and critical inquiry.
- The CTL organizes and sponsors professional development opportunities for faculty and staff on a wide range of topics to support the University's mission. Workshops, study groups, brown bag discussions and individual consultations are designed to enhance teaching and learning across the University.

講演会資料



講演会看板

講演会写真

合同授業の写真

学部・大学院講義およびFD講演会参加人数

学部講義 (90分、12回)	
履修者	24名
聴講者	18名 (院生を含む)
大学院講義 (90分、12回)	
履修者	5名
聴講者	15名
FD講演会	
参加者 (教職員)	12名

A : 授業内容(学部) Positive psychology and wellbeing

Since its origins, applied psychology has been dominated by its efforts to detect and treat mental illness, to relieve suffering and pain, and to understand the many factors that contribute to psychological distress. Rather than exclusively focusing on psychological deficits and factors that contribute to mental illness, positive psychology is oriented toward building and utilizing human strengths in the pursuit of mental health. It calls for as much interest in promoting the best things in life as in repairing the worst and as much attention to fulfilling the lives of healthy people as to healing the wounds of the distressed. In this course, we will discuss emerging research in positive psychology, its relationship to both physical and mental indices of health, and the use of applied psychology principles to increase the quality of life for all of humanity.

授業内容 (大学院) Core Reflection: A Process for Human Potential

This course is designed to familiarize students with the theoretical framework and application of Core Reflection, a self-reflection process that promotes individuals to reach their full personal, social and professional potential within teacher education programs. Grounded in the understandings of positive psychology, Core Reflection a strength-based process assists individuals to utilize their personal core strengths to realize his/her full potential. Illustrations of its current use within an American teacher education program to assist emerging teachers learn to better align their teaching practice with their personal strengths, commitments and authentic selves will be provided. In addition, potential relevance for other personal and professional contexts will be explored. Special emphasis will be placed on developing students' ability to recognize core strengths within themselves and others, and understanding the skills/process for positively affecting individual potential. Students will also have an opportunity to enhance their potential through practical applications of course content.

B : 授業を受けて～学生の感想 (学部)

- ・英語の授業があるということ、新しい分野の心理学を学べたということは、自分にとって、とても大きな経験になりました。ありがとうございます。 **Thank you, Dr, Smith** :)
- ・TAさんの通訳が大変助かりました。スミス先生の英語は聞き取りやすいですが、やはり長時間の授業になると集中力が切れてしまうことあるので先生が何をいっているのかわからないことがありました。通訳がなければ授業な内容を理解するのは難しかったと思います。お茶大は英語の必須授業が少ないので、英語で授業が受けられるのは、英語の勉強にもなるし、専門の勉強にもなるのでとてもよいと思います。こうした授業をもっといいのではないのでしょうか。
- ・英語の授業ということで不安だったが、スミス先生がゆっくりわかりやすくお話して下さったので、大まかに理解できた。私は心理学の専門でも、人間社会学科でもなくて、初めは心配だったが、周りの人がとても親切で楽しく学べた。ナオミさんや王先生など通訳して下さい、わかりやすかった。すべての方々に感謝です。ありがとうございました。アクティビティーが多くてよかったです。
- ・多くのクラスメートと対話を通して、多様な positive 意見を聴くことができた。

- Professor Smith、 Sorry for my absence. This is my journal. Thank you for your impressive lessons.
- 全体でも個々でもすごく楽しい授業でした！ポジティブ心理学の「学問」として人生の楽しみ、おもしろさ、豊かさを考えるというのが新鮮でした。他人に褒められるのが照れくさくもあり、とてもうれしかったです。自分の強みを常に意識するのは難しいと思いますが、自身や心のよりどころのひとつになると思います。あと、先生や先輩方を見て英語を話せるようになりたい！と切実に思いました。
- 4日間だけの授業でしたが、とても楽しかったです。あの教室に入ると、何となくハッピーになりました。自分はどんな人か、どういう人になりたいと考え直しのきっかけでした。美を発現する、いいことを見つめることで毎日楽しい生活を送れるように頑張っています。スミス先生の話もとてもわかりやすく、最初は不安があったのですが、だんだん慣れてきました。先生が作った雰囲気、環境は素晴らしいと思います。いろいろな作業を通じて、たくさんの人とつき合うことができました。このクラスの一員だとしても強く感じました。自分を幸せにする、そして人を幸せにする授業でした。最後の日になってしまって、悲しくなってきました。この教室はただの教室ではなく、みんなの笑顔、友情がつめてあって、解散するのは悲しいことです。授業は今日で終わりですが、自分への影響はなくなるわけにはなりません。もっと積極的に楽しく、人とつながりながら有意義な毎日を過ごしたいと思っています。この授業をすすめてくれた伊藤先生、スミス先生、翻訳してくれた先生たちを感謝しています。ありがとうございました。
- 私は、英語に自信がないので、初めは授業についていけるか不安でした。しかし、スミス先生はゆっくりとわかりやすく話してくださいましたし、通訳の方がとても丁寧に訳して下さったので、その不安はすぐなくなりました。また、スライドもプリントしていただいたので、それも理解の助けになりました。ありがとうございました。授業の初めの方に、自分で英語で文章を書くときは、けっこう苦勞したのですが、最後の授業のときに英文を書くときは、あまり辞書に頼らずに、書くことができました。短い間ですが、たくさん英語に触れられたからかなと思いました。英語で授業を受けて、英語がもっとできるようになりたい気持ちが強くなりました。また、授業の中でのアクティビティや、パソコンでの検査を通して自分の **character strengths** を見つけることができ、今まで知らなかった自分を見つけられたと思います。自分の強みを知って、それを生かした行動をすることで、毎日がもっといい日になると実感しました。私はマイナスに考えてしまったことが多かったので、今回、この授業を受けて本当によかったと思いました。これからも毎日、どんないいことがあったか振り返って、「今日もいいことがあったなー!!」と思える日を増やしていきたいです。またスミス先生が来日されることがありましたら今回のように授業を開講していただけたらうれしいです。
- 英語の授業はわからないところもあったけどレジュメなどで頑張ってついていけたし、努力できた。先生の英語がわかりやすかったので聞こうとできたし楽しかった。また機会があったら受けたい。普段の講義でできない学生同士の議論ができたのがいちばんよかった。
- Dear Mr.Smith, I'm pessimistic. I don't like me, and I think I don't have a good point. But when I was in this class, I felt that I may have some good points. Through the class, I came to think more positively and I want to so more. I'm glad to see you and know "Positive Psychology". From now, I want to see everyone's good points and praise them for it. I really enjoyed the class. Thank you very much.

- ・この講義に出席して本当によかったと思っています。英語で行われることに不安もありましたが先生がゆっくり話してくださったり、通訳の方が助けて下さったり、何とか内容を理解することができました。とても楽しかったです。
- ・英語の授業はどうなることかと心配だったが、まず先生の言っていることを理解できただけでもうれしかった。お互いの話を聞くことも、ほとんど知らない人どうしだからやりやすかった、という点があると思う。この授業によって自分のネガティブな部分ではなくポジティブな部分に目を向けることができたこと、とてもうれしかった。
- ・ゆっくり英語を話してくださったので大体はつかめた。色んな学部の人と話せて楽しかった。グループ学習はよかった。
- ・この授業を受けたきっかけは、来年短期留学をするため、英語で授業を受けることに少しでも慣れたい、という思いからだ。が、以前は自分には短所だらけだというネガティブ思考だったのに、今は自分にはいくつもいいところがあるのだとわかった。受講して本当によかったです。ありがとうございました。
- ・最初、英語での授業ということで、不安があったのですが、スミス先生のゆっくり、はっきりとした英語、そして分かりやすい先生方の翻訳によって、授業内容を理解することができました。ありがとうございました。授業内容も、これまでネガティブな思考だった私に、光を与えてくれた気がします。自分の人生の見方が変わったような…。本当に受けてよかったです。ありがとうございました。
- ・スミス先生の英語はとても分かりやすく、英語に苦手意識を持っていた私にも理解できるものであったので、楽しく講義を聴くことができた。グループワークや家でやってくるように課された課題では日本語でよいという部分が多かったので、英語が負担だと感じられる部分は少なかったように思われる。

ただ一つ残念に思ったのは、自分をもっと積極的に英語を話すことでスミス先生とのコミュニケーションを活発なものにできたのではないかという点である。なかなか自分からコミュニケーションをとることができなかつたのが少し心残りである。次にもし同じような機会があれば、自分から積極的にコミュニケーションをとるようにし、世界を広げていきたいと思う。

講義の内容もとても興味深く、面白かった。また、自分自身について見つめ直すよい機会だったと思う。自分の強みに目を向けたり、日常生活における良いことを探すことで自分について考えるきっかけになったと思う。

さらに自分の卒論やその先の修士課程においてもやりたい、究きつめたいと思えるテーマに出会えたことも、この講義での収穫の一つである。今後、自分が学びたいと思えるテーマに出会わせてくれたスミス先生や社会心理学研究室の皆さん、坂元先生など多くの方々に感謝したい。とても有意義な講義であった。

FD 講演会 南オレゴン大学における FD の取り組み

(英語題目：Fostering Global Citizenship at Southern Oregon University)

南オレゴン大学 (SOU) のミッション：地球市民の育成

近年、アメリカ社会では、市民性の低下がしばしば指摘される一方、逆の傾向もよく指摘される。南オレゴン大学では、学生の成功や知的成長の促進、責任のある地球市民への育成を使命としている。

(1) 地球市民とは

地球市民はまた、市民活動 (Civic Engagement) ・市民性 (Civility) ・サービスランニング (Service Learning) と呼ばれる。地球市民とは、①国際感を持ち、世界市民の一員としての自覚を持つ人、②世界の多様性を大事にする人、③政治や経済、社会、文化、科学技術、環境などの社会運営システムを理解できる人、④社会的不正と戦う人、⑤地域社会や国際社会に参加または貢献できる人、⑥世界の持続的発展に貢献したい人、⑦自分の行動に責任を持つ人等を指している。

地球市民の育成には、個人のボランティアリズムの向上、エコ生活への参加、大学や地域社会、民主的プロセスへの参加等の様々な形が考えられる。実際に地球市民を測定する際、以下の項目がよく使われた。

- ・あなたはどのぐらいの頻度で、大学の正規課程の一部分としての地域密着型のプロジェクトに参加しますか。(学生の市民性に関する全国調査 (NSSE) より)
- ・大学一年生の時、あなたは部活またはその他の学生主催の組織に参加しましたか。(UCLA 調査より)
- ・あなたより不幸な人を助けることは、あなたにとってどのような意味を持ちますか。(学生の市民性に関するクレアモント大学の調査より)

(2) 大学における地球市民育成のメリット

大学での地球市民の育成は、様々な潜在的なメリットが期待できると言われている。たとえば、①大学の風土やアイデンティティの向上や、②学生の参加意欲や生産性、進級率または心身の健康の向上、③地域社会または社会一般への貢献等。

これまでの地球市民に関する実証研究は多くのポジティブな知見を見出している。たとえば、大学生による市民活動の参加は①大学生の学力を向上させた、②大学生が持つステレオタイプを低減し、大学生の異なる文化または人種に対する相互理解を促進した。また、大学生による市民活動の参加は、③チャリティーやボランティアリズム、人生への満足感とポジティブに相関する一方、学生のうつやアルコールの乱用とネガティブに関連した。さらに、④大学にとって、学生による市民活動の参加は、学生のメンタルヘルスを促進する上で有効なストラテジーだという知見も得られた。

南オレゴン大学における地球市民育成プログラムの展開

(1) 学生向けの地球市民育成プログラム

地球市民の育成をテーマに、南オレゴン大学では以下のプログラムを展開してきた。

① キャンパス・テーマ・プレゼンプログラム

SOU では、毎年キャンパス・テーマ・プレゼンを開催し、様々なセミナーを実施した。2011年度のテーマは“市民性 (civility)”であり、ダグラス博士本人は学内のいじめ問題についてプレゼンを行った。2012年度のテーマは“幸せ (Happiness)”であり、こうして、南オレゴン大学ではキャンパス内のポジティブな感情の育成に力を入れている。

② キャリア開発プログラム

③ 通学生支援センター

④ 学業助言と支援プログラム

⑤ 学生健康保健センター

学生健康保健センターは、レベルの高い教育や一次治療、心身健康促進サービスを通じて、学生の健康・保健を最適な状態に保ち、学生の学業の向上を促進することを目標としている。本センターは学生にキャンパス・ライフのポジティブな面に気づかせ、学生の精神的健康の維持やストレスへの対処等の手助けをしている。

⑥ 障害者サービス

⑦ “南での成功” プログラム

このプログラムは学生の進級率と卒業率の向上や、地域社会とのかかわりを促進するために設計されたものである。このプログラムは学生のニーズに合致する様々なサービスを提供しながら、学生が自分の目標を明確にすること、良い学業成績を達成すること、正規の就学期間内に卒業することを手助けする。

⑧ライティングセンター

⑨Alternative Spring Break (ASB)

このプログラムは学生の、地域社会への社会奉仕やリーダーシップの育成、参加者間の絆の強化を促進することを目的としている。たとえば、春休みを利用して、学生は2週間ほどを町に出て、地域社会とどのようにかかわるかについて体験する。

(ここまでの講演者はダグラス・スミス博士)

(ここからの講演者はジョアン・ロースミス博士)

(2) 教職員向けの地球市民育成プログラム

南オレゴン大学は、学生の個人的成功、学力の向上、責任感の育成を使命としている。その使命を実現するため、南オレゴン大学は教職員向けにティーチング&ランニングセンター (CTL) を設立した。CTLは、学問やコラボレーション、批判的考察を土台に、質の高い教育を理念とする大学風土を育成することを目標としている。大学全体のティーチングレベルとランニングレベルを高めるため、CTLは大学教職員の専門的能力を開発するプログラムや機会を提供した。たとえば、ワークショップ、学習会、弁当持ち込み可の討論会、個別相談等の開設等。以下はその具体例である。

例1) ティーチング&ランニング研究会 (Scholarship of Teaching & Learning)

ティーチング&ランニング研究会は毎月最初の金曜日に行われ、教職員がグループディスカッションの形で大学の中核的理念について話し合う会である。

2010年度は「Work」をテーマに、“南オレゴン大学を教職員にとって働きやすい職場、学生にとって学びやすい大学にするには、何ができるか”について考えた。また、キャンパス・テーマの「人間であることは」に合わせて、“量化できないが私たちの対人コミュニケーションにおいて、きわめて重要であるものについて、どのように測定すればいいのか”について、学習会を行った。

今年のテーマは「地球市民の育成」になるが、それに合わせて、様々なテーマの討論が展開されている。

例2) 小集団による教育診断 (Small Group Instructional Diagnosis (SGID))

これは教員に自分の授業または教示に対する学生の評価を知る機会を提供している。

担当教員以外の教員はそのクラスの学生に対して、担当教員の教示の仕方や学生の期待等についてインタビューする。学生の回答が匿名で担当教員にフィードバックされる。

このプログラムの目標は、教員やコースの良いところを見出すと同時に、コースの内容や伝え方の改善を図る。

南オレゴン大学教育学院における地球市民育成の実態

(1) 教育学院での地球市民育成の展開

ジョアン・ロースミス博士が所属する南オレゴン大学教育学院は、コア・リフレクションの技法を導入し、地球市民の育成に取り組んでいる。学院は教育が従来のようにスキルや知識を教えるだけではなく、学生のコア・コリティを発見し、学生の持っている最高の自分を引き出すことこそが教育の本質だと考えている。

たとえば、教師は学生ができないところ・ダメなところを掘り下げるのではなく、学生

が持っているコア・コリティ、そのコア・コリティを通じて授業で成し遂げたことについて掘り下げる。また、教員が教職員の会で、自分自身の自己開発について考えてもらう。彼らが授業で経験したテーチングまたは学生が持つランニングの問題について語り合い、それによって、教員間の問題共有と支えあいを実現する。

以下は南オレゴン大学教育学院が考えるコア・リフレクションの概念とその手法について紹介する。コア・リフレクションとは、教師または学生が元々持っている、かつ自分がなりたい教師になるために重要だとされるコア・コリティについて、省察するプロセスである。コア・リフレクションは具体的に以下のように実施される。

Step1) あなたが最も良い影響を受けた先生を思い出し、その先生の特徴を1つ特定する。

Step2) (2～3分以内に)

- ・その先生のコリティについて記述する。

Step3) (5分間)

- ・その先生に関するあなたの記述をパートナーに伝える (1分間)
- ・パートナーが最も影響を受けた先生の特徴について聞く (1分間)
- ・パートナーとあなたにとって重要なコリティについて共有する。
- ・(討論) あなたが持っているコア・コリティは何でしょう？あなたは自分自身またはあなたのパートナーについて何が分かったか。

教育学院では、コア・リフレクションをコースや、学生評価、教職員の自己開発サポートの中に取り込み、そして、以下の発見が見出された。

- ・FDに関して

コア・リフレクションの導入は教師と学生の両方に影響を与えた。教師に、自分が持っているコア・コリティと教え方のバランスを取ろうとする傾向はみられた。

- ・PD (Programmatic Development) に関して

コースレベルまたはプログラムレベルで変化が見られた。学生のコア・コリティに合わせて、学生の学力またはプログラムを通じて得られた能力を評価するようになった。

(2) コア・リフレクションのシミュレーション

12月12日当日の出席者が2人1組で「自分に最も良い影響を与えた先生の特徴について」2分間ずつ話し合い、そのあと、パートナーのコア・コリティについて考えた。

(テーマ)

あなたに最も良い影響を与えてくれた先生の特徴は？

(参加者の解答例)

- ・面白いことであった。常に、学生の話に興味を見せていた。授業は楽しかった。
- ・何もしないことであった。学生を干渉せず、学生を好きなようにやらせた。言い換えれば、学生を信じていた。
- ・学生を公平に扱うこと。専門性が高いこと。

(ジョアン・ロースミス博士のまとめ)

ここで言えるのは、自分に最も良い影響を与える先生の特徴に、あなたが重要だと思う特性を反映している。教育とは、学生の最善の自分を見出すことであり、人間性(市民性)を教えることである、スキルを教えることではない。

(Q&A)

Q: コア・リフレクションは教員と職員の間でも行われているか。

A: SOUでは職員も教員の会に参加している。学校に何が起きているか、何をすべきかを知るために。